

世界一学力の高いシンガポールの小学校の中へ

シム チュン・キャット

シンガポールは、表1が示すように直近の国際学力比較調査の各科目分野で一位を独占した国である。ここでは、筆者が近年シンガポールにあるA小学校で行ってきた調査をもとに¹、この小学校の内部へのご案内しよう。

1. A 小学校の特色

シンガポールの北西部に位置するA小学校は典型的なネイバーフッドスクール (Neighbourhood School) である。ネイバーフッドスクールは、立地が街の中心部から離れ公営住宅が立ち並ぶ地域の近隣にあるだけでなく、児童・生徒の学力に関しては名門学校であるブランドネーム・エリートスクール (Brand-name Elite School) との間に大きな隔たりが存在するようなイメージもある。もっとも、名門学校は少数であり、ほとんどの小学校はネイバーフッドスクールであると考えて差し支えない。さらに、「すべての学校が良い学校に」(Every School a Good School) という新しい教育方針のもとで、シンガポールにおいて学校間の差異

縮小化が政策的に進められていることもここで記しておく。

また、シンガポールの小学校への進学については優先序列があり、最も低い順位に位置づけられているのは国籍も永住権も持たない外国人の児童である。つまり、国籍もしくは永住権を持つシンガポール居住者の児童が全員入学を決めた時点で定員が埋まらない小学校へのみ外国人児童は入学可能である。言い換えれば、外国人児童の多い小学校は地元の保護者に人気がない学校ということになる。A小学校で実施した調査によれば、同校では隣国のマレーシア、フィリピン、インドネシアや中国国籍の外国人児童が多く、またインド、ベトナム、ミャンマー、韓国、そして日本から来た児童もいるということであった。

2. A 小学校4年生児童の1週間のスクールライフ

筆者は調査の焦点を4年生児童に絞っている。その理由は、同学年が小学校5年次からスタートする“Subject-based Banding”という教科ごとの習熟度別・能力別学級

表1 TIMSSとPISAにおける学年・科目別のトップ5の国・地域

| TIMSS-2015 | | | | PISA-2015 | | |
|------------|--------|--------|--------|-----------|--------|--------|
| 小4算数 | 小4理科 | 中2数学 | 中2理科 | 数学的応用力 | 科学的応用力 | 読解力 |
| シンガポール | シンガポール | シンガポール | シンガポール | シンガポール | シンガポール | シンガポール |
| 香港 | 韓国 | 韓国 | 日本 | 香港 | 日本 | 香港 |
| 韓国 | 日本 | 台湾 | 台湾 | マカオ | エストニア | カナダ |
| 台湾 | ロシア | 香港 | 韓国 | 台湾 | 台湾 | フィンランド |
| 日本 | 香港 | 日本 | スロベニア | 日本 | フィンランド | アイルランド |

注：国際教育到達度評価学会が行うTIMSS(1964年から実施、1995年からは4年ごとに実施)が小学校4年生と中学校2年生を対象に児童・生徒の算数・数学および理科の教育到達度を測るのに対して、経済協力開発機構によるPISA(2000年から3年ごとに実施)は調査対象にあたる15歳の生徒が数学、科学と読解力の3分野において実生活のさまざまな場面での程度活用できるかを測定する。

編成の前段階に当たる非常にクリティカルな時期だからである。A 小学校の4年生で、学力が最も低い児童が集まるB組の一週間の時間割表は表2の通りである。

シンガポールでは、大人の通勤ラッシュアワーと重ならないよう、また仕事を持つ保護者が子どもを学校へ送ることができるよう、学校の朝はとにかく早い。表2の通り、児童たちは07:20に始まる朝礼集会の前に登校しなければならず、そして授業は07:30からスタートする。

母語と人格・市民教育の授業を除くすべての教科の教授言語は英語となっているために、英語が非常に重要な科目であることは言うまでもなく、週に13コマも当てられている。英語に次いで週間コマ数が多いのが、算数の11コマと母語の8コマである。このことから、この三科目がシンガポールにおける小学校4年次の学習の柱をなしていることがわかる。

さらに、週によって木曜日の午後に部活や課外活動の時間があるほか、週やクラスによっては月曜日と火曜日の午後にそれぞれ1時間と2時間の補習時間が確保されていることにも注目されたい。無論、その時間帯に行われる補習授業の内容とレベルがクラスによって違ってくことは、改めて指摘するまでもない。

3. いざA小学校の内部へ

以下では、A小学校に通う児童のスクールライフや校舎の様子を写真とその説明で簡単に紹介していきたい。

日が完全に昇る前に近所に住む子どもたちは徒歩で学校へ向かい(写真1)、保護者の車やスクールバスで登校する児童も少なくなかった(写真2)。ネイバーフッドスクールであるA小学校だからこそ車の交通量はそれほど多くない。これが名門のブランドネーム・エリートスクールとも

表2 4年B組の週間時間割表

| | (月) | (火) | (水) | (木) | (金) |
|-------|--------------------------|--------------------------|------|-------------------------|------|
| 07:20 | 朝礼集会 | 朝礼集会 | 朝礼集会 | 朝礼集会 | 朝礼集会 |
| 07:30 | 算数 | 算数 | 英語 | 理科 | 母語 |
| 08:00 | 算数 | 算数 | 英語 | 理科 | 母語 |
| 08:30 | 算数 | 社会 | 英語 | 体育 | 英語 |
| 09:00 | 休憩 | | | | |
| 09:30 | 人格・市民教育 | 人格・市民教育 | 母語 | 図工 | 英語 |
| 10:00 | 人格・市民教育 | 母語 | 母語 | 図工 | 英語 |
| 10:30 | 英語 | 母語 | 算数 | 集会 | 体育 |
| 11:00 | 英語 | 理科 | 算数 | 担任ガイダンス | 体育 |
| 11:30 | 英語 | 英語 | 体育 | 担任ガイダンス | 算数 |
| 12:00 | 社会 | 英語 | 体育 | ランチ | 算数 |
| 12:30 | 音楽 | 英語 | 理科実験 | 母語 | 掃除 |
| 13:00 | 音楽 | 英語 | 理科実験 | 母語 | |
| 13:30 | | | | 算数 | |
| 14:00 | | | | 算数 | |
| 14:30 | 週やクラスによって14:15から1時間の補習時間 | 週やクラスによって14:15から2時間の補習時間 | | 週によって14:45から2時間の部活や課外活動 | |

補習時間を含まないコマ数(1コマ=30分):

英語: 13, 算数: 11, 母語: 8, 理科: 5, 体育: 5, 人格・市民教育(母語による教授): 3, 社会: 2, 音楽: 2, 図工: 2, 担任ガイダンス: 2



写真1



写真3



写真2

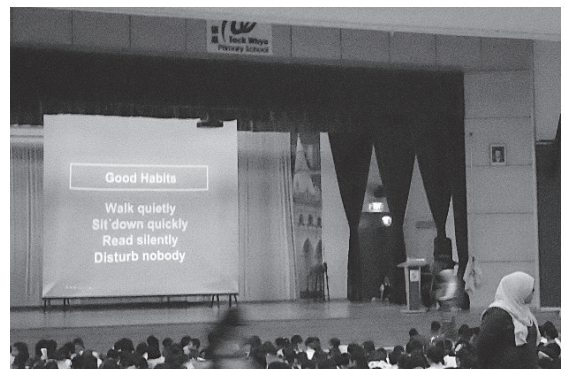


写真4

なると、シンガポールでは毎朝見慣れた光景であるが、学校の近辺で車が長蛇の列を作り渋滞を引き起こす。

朝礼集会が行われるホールに着くとすでに多くの子どもが静かに読書や勉強をしていて（写真3）、ステージの壁にプロジェクターで映し出された“Good Habits: Walk quietly, Sit down quickly, Read silently, Disturb nobody”という大きな文字が印象的だった（写真4）。

朝礼が始まり、プロジェクターで映し出された、はためく国旗に向かって国歌（国語のマレー語）と国への忠誠の誓い（英語）が唱和された（写真5）。その後、担当教員が簡単な訓話や髪型などについての注意を行ったのに続いて、代表児童がステージに上がり、その日の連絡事項や行事予定を確認した。驚いたことに最後には、代表児童が“Message of the Day”を大きな声でホールの皆に伝えた（写真6）。その日のメッセージは“*It is not only what we do, but also what we do not do for which we are accountable. Exercise Responsibility.*”であった。因みに、別の日には“*When bad things happen, resist the urge to blame others. Instead, find something you can do to*



写真5

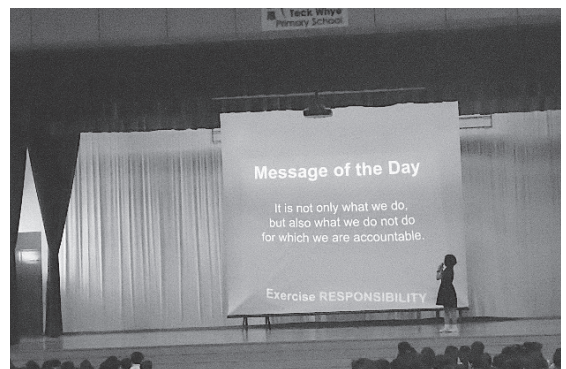


写真6

fix the problem. Exercise Responsibility.”という「今日のメッセージ」もあった。

朝礼集会の後、児童たちはぞろぞろとそれぞれの教室へ、わいわいしゃべりながら楽しそうに向かっていた（写真7,8）。

一方で、児童たちが教室へ向かう頃、昭和女子大学のようにあちこちに廊下や階段、道路を掃除している委託業者の清掃員たちの姿が見えた（写真9,10）。清掃員たちのほとんどが低賃金の外国人労働者であるため、家族を伴ってのシンガポール入国はできず、つまり彼らの子どもたちは彼らが毎日きれいにしているA小学校に入学することはない。ところで、写真10の右側に写っているように、校舎を囲むフェンスのすぐ外に公営住宅が建っていることはいかにも国土の狭いシンガポールらしい。

民族や宗教によって食べ物のタブーが多種多様であるため、シンガポールの学校に給食制度はない。その代わりに、学校には決まって食堂があり、価格も政府による補助金で低く抑えられている。休憩やランチの時間になると食堂は児童たちでごった返し、皆それぞれのお小遣いでいくつか

ある店（Stall）から好きなものを買って好きな席で好きな友達と食べる（写真11）。A小学校ではマイノリティー民族が多いため、マレー料理とインド料理がほかの学校よりやや多いことが印象に残る。また、子どもたちの食事がそろそろ終わる頃に、食堂内の掃除を始めているのはもちろん委託業者の清掃員である（写真12）。

写真13に写っている店のオーナーZさんは華人系であり、華人系の料理を提供するだけでなく、ハラルフードも販売している。そのため、ハラルフードを取り扱うイスラム教徒の店員を1人雇わなければならないと彼は話してくれた。

Zさんの店だけでなく、食堂のすべての店には写真14に写っている小型ノートパソコンのような、“Automated Breakfast Electronic Coupon”という装置が備えられている。Zさんの話によると、保護者が申請すれば貧困層児童にだけカード型のクーポン券が配られ、学校がある日のみ一食につき2ドル（2018年7月現在、1シンガポールドル≒80円）、補習時間や課外活動のある日ならランチも含め4ドルが電子マネーで支給されることになっている。装置は



写真7



写真9



写真8



写真10



写真 11

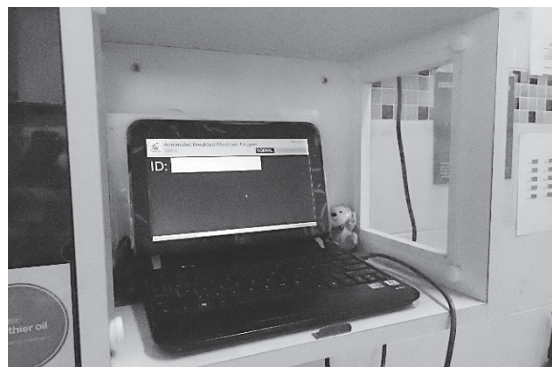


写真 14



写真 12



写真 15



写真 13



写真 16

その金額を管理するためのデータ処理を行うものである。

A 小学校では、このクーポンカードを持っているのは全児童数の約3割であるとZさんは推測し、これは全国平均より高い数字である。また、彼らの多くがマイノリティー民族であるとZさんは付け加えた。

児童たちが必ず集まってくる食堂の近くには、各科目に関するクイズや学習に役立つ情報が大量に貼ってある掲示板が目につく(写真15は英語、写真16は算数について)。

食堂に向かう階段の壁に(写真17)、また各トイレの壁や

ドアには(写真18)きれいな絵が描かれている。トイレのドアには、動物たちの習性に関する豆知識も書いてある。

さらに、食堂の壁にはヘルシーライフスタイルの実践を促す“Pursue a Healthy Lifestyle for Life”の目標がかわいい絵で説明されており(写真19)、児童皆が通ることになる廊下の天井にも“Confident Communicators”という大きな文字が掲げられ(写真20)、その後には“Healthy Individuals”, “Adaptive Leaders”, “Model Citizens”, “Passionate Learners”が続く。

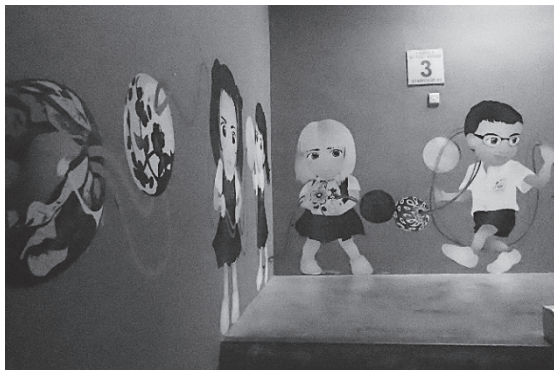


写真 17



写真 20



写真 18



写真 21



写真 19



写真 22

写真 21,22 は、週に 5 コマある体育の時間の様子である。図書館の内部(写真 23,24)の壁には“Spark Your Imagination!”というインパクトのある文字が並んでいる。因みに、各教室にも図書コーナーが設けてある。

木曜日 10:30 には講演などを含む特別活動を行うための週 1 回の全校集会があり、筆者が見学したときはバンドグループによる音楽ライブが開催され、ディズニー映画のテーマソングなど子ども向けする数々のヒット曲に児童たちは大いに盛り上がっていた(写真 25,26)。

「掃除」の時間が金曜日 12:30 にあるものの、児童たちの担当エリアは基本的に教室の中やそのすぐ外の廊下と窓拭きぐらいで(写真 27)、たとえば母語の授業などが行われる共用の教室の清潔さを保っているのはやはり委託業者の清掃員なのである(写真 28)。

4. 結びにかえて

そもそも近年、国際学力比較調査で好成績を残してきたシンガポールの学校教育については、国際比較調査の量的



写真 23



写真 26



写真 24



写真 27



写真 25



写真 28

分析を除けば、研究者が学校現場に入り込みにくい事情から、調査研究の蓄積が非常に少ないのが現状である²。

本稿によって少しでもシンガポールの小学校の様子が伝わったのなら幸いである。なお、本調査で得られた学術的知見はすでに日本国内や海外の学会で発表され、その研究成果に関する本を筆者は現在執筆中である。

注

- 1 同調査は JSPS 科研費 JP26245078 「学力格差の実施把握と改善・克服に関する臨床教育社会学的研究」の活動の一部である。
- 2 例えば近著でも、アセアン諸国における市民教育調査の比較分析にシンガポールだけが含まれておらず（平田利文編著、2017『アセアン共同体の市民性教育』東信堂）、アセアンの教育を論じる章でシンガポールに関する言及がわずかに見られる程度（村田翼夫編著、2016『多文化社会に応える地球市民教育—日本・北米・ASEAN・EUのケース』ミネルヴァ書房）である。（シム チュン・キャット 現代教養学科）